

## 「私たちが、〈ものづくりマイスター〉の派遣をお願いした理由。」

事業成長に直結する、人材育成。  
その軸となるのが、マイスター制度。

清国グループの創業は昭和39年。金属プレス加工を得意とするものづくりメーカーです。その中で私たち清国産業が担っているのは、すべての軸となる人材育成。世界で闘える人材を自社で育てていくために、平成17年頃から本格的に新卒採用を始めました。そして、より質の高い新人教育を模索するなかで出会ったのが、「ものづくりマイスター制度」でした。なかなか弊社のベテラン技能者も忙しく、研修に時間を割くのが難しい状況…。研修講師の適任者を見つけるのに苦労していた時に、神澤マイスターをご紹介いただきました。神澤マイスターは同業の大手企業に長年勤めていた、この業界の大ベテラン。検査機器の基本的な扱い方はもちろん、うちの若い子たちに、現場で生きる豊富な知恵を授けていただいております。社外の方だからこそ、客観的なアドバイスをいただけるので助かりますね。今では、私たちの新入社員研修に欠かすことができない、先生といった存在です。



清国産業 株式会社  
総務部 リーダー 山崎仁さん

## ■ 実施したカリキュラム

## 指導の概要

実施回数：7回(前期3回/後期4回) 受講者数：6名  
実施場所：清国産業株式会社 本社内



## ■ プログラム内容

- | 前期 | 1回目 | ものづくりに携わるうえでの心得      |
|----|-----|----------------------|
|    | 2回目 | 計測器などを使用した実習。基本的な扱い方 |
|    | 3回目 | 業務に関わる製品を用いた実践的な計測   |
| 後期 | 1回目 | 前期のプログラム内容の復習        |
|    | 2回目 | 業務に関わる製品を用いた実践的な計測   |
|    | 3回目 | 技能検定の内容を踏まえた実習       |
|    | 4回目 | 技能検定の内容を踏まえた実習       |

## 💡 教育プログラムの解説

正確なデータを測定できる必要性を、しっかりと理解してもらうことが大きなテーマ。前期は、新人研修としての指導。社会人としてのマナーや考え方の指導から始まります。次に、ノギス、マイクロメータ、ハイトゲージ、ダイヤルゲージ、シリンダーゲージなどといった、測定器の基本的な扱い方を、実習を通して学んでいきます。後期の指導は、技能検定3級の課題をベースにした、より実践的なプログラムを実施しています。

マイスターの生きた知恵を、  
新入社員研修へ取り入れる意義。

半世紀以上の歴史をもつ清国グループ。今後はよりグローバルな展開を視野に入れた成長戦略のもと、十数年前からは新卒採用にも注力しています。そんな同社が目をつけたのは、この〈ものづくりマイスター制度〉。外部の技能者に指導を仰ぐことのメリットとは何か？実例を通してご紹介していきます。

## ものづくりマイスター派遣先企業

## ■ 清国産業 株式会社(清国グループ)

所在地	群馬県太田市清原町13-16	従業員数	グループ連結4,638名
事業内容	グループ生産拠点の管理、営業・技術部門の統括/金属プレス加工全般/量産、試作板金加工全般/金属プレス金型、治工具製作/グループ企業内の人材育成支援	設立年	昭和39年
		資本金	5,000万円





座談会  
INTERVIEWものづくりマスター × 若手技能者  
「実技指導を通して、こんなことを学びました。」

ものづくりマスター (写真\_右)

## 神澤 孝治さん

昭和29年生まれ  
平成4年度 1級技能士「機械検査(機械検査作業)」取得  
平成13年度 特級技能士「機械検査」取得  
平成26年度 厚生労働省 ものづくりマスター「機械検査」認定

長年、大手企業の製造業務に従事。定年退職の2年前から経験を生かし、現場で培った知識と技能を、次の世代へと継承している。同社のほかにも、マスターとして複数の企業と高等学校などに実技指導を行う。

まずは職業人としての  
土台づくりから。

**神澤さん** 私は47年の間、製造現場で働いてきました。せっかくこの世界に入ったみなさんにも、長く続けていってほしい。その思いから、マスターを始めました。なので表面的な技術だけではなく、仕事をするうえで一番大切な心構えについてから教えます。例えば、あいさつといった礼節、社会人として必要な知識、人間関係の重要さといったところです。

**丸橋さん** 研修というと、技術を学ぶ場というイメージがあったので新鮮でした。人生経験豊富な神澤マスター

の言葉は、優しくも重みがあります。僕は人とのコミュニケーションがあまり得意な方ではなかったので、自分を改めようと思いました。

**滝田さん** これまで学校では、同年代としか話をしたことがなかったので。現場研修に行った時にも、いろいろな年代の人たちが連携して作業を進めていました。特にトラブルが起きた時に、どう対処していくか?という話が参考になりましたね。

**神澤さん** 私のように社外の者だからこそ、人間関係の話なども客観的に伝えられると思うんですよ。そういった社会人としての土台となる話をしています。

受講した若手技能者 (写真\_左)

丸橋 優也さん | 平成30年入社

入社してまだ数ヶ月程度で、現在は研修で各現場を回る。学校では、電気系を学んでいた。将来は技能者として、海外で活躍するのが夢。

受講した若手技能者 (写真\_中央)

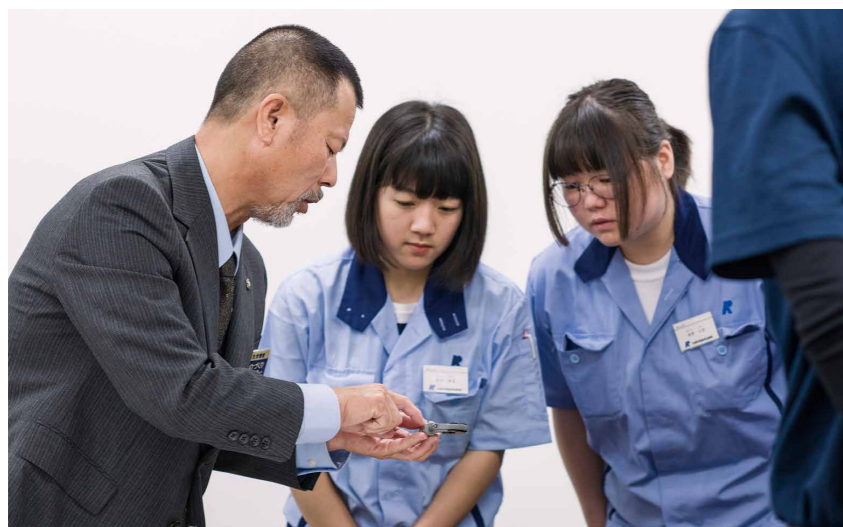
滝田 若菜さん | 平成30年入社

同じく、新卒入社同期で、現在は研修中。ものづくりがしたいという思いから、商業高校から入社。知識はほとんどゼロからのスタート。

現場では知ることのない、  
細かい部分まで、丁寧に伝える。

**滝田さん** 私は商業出身なので、知識はゼロ。マイクロゲージやノギスと言われてもさっぱり…。そんな私にもわかるように、測定器の扱い方から、細かい部品の名称まで、丁寧に教えてくれます。おかげで工業製品自体にも、興味がわいてきました。

**神澤さん** 現場に出る前に、正しい知識を身につけたほうがいいですからね。精度の高いものづくりに欠かせない測定方法の基礎を、身につけます。まずは「1ミクロンってどれくらいなんだっけ?」というのを考えてもらい、「じゃあ機械を使ってみて、その差ってどのくらいなのか?」というのを肌で実感してもらおう。見るだけじゃわからないので、デモンストレーションをしたあとに、自分の



## 新入社員を、どのように育成するか。

この仕事で、末永く活躍してほしいから。  
仕事場では教えられないことを、伝えていきたい。

手で測定器にさわって体感していきます。

**丸橋さん** 測定器のコツを掴まないと、まったく正確な数値が出ません。正しい扱い方を知らずにやるのは、こんなに効率が悪いんだと知りました。早く学んだことを、このあとの研修先で実践してみたいですね。

正しく測るのは、技術。  
技を身につけた状態が、技能。

**神澤さん** 正しく測るのは、技術。それを身につけた状態が、技能だと思うんです。後半の実習では、いろいろな製品を使って計測をします。まずは、正確な数値が出るようになるまで、測定方法を体に覚えさせます。その次に、スピードを求めていく。「まずは正確な技能を。速さはそのあとに。」それを間違えてはいけません。なぜなら企業として、正しい検査結果を出さないと、信頼関係が大きく崩れてしまう。効率化ばかり言われる世の中でも、やはり大事なことは嘘のないこと。正しい技能を身につけることなんです。

**丸橋さん** 今回習っているのは、基礎中の基礎ですけど。それでも上手くできません…。先生は一つ一つの所作が美しく、手際がいい。すべてが簡単そうに見える。やっぱり長年の積み重ねが大事なんだあ、と。

**滝田さん** その気持ち、すごくわかるな…。まだまだわからないことだらけですが、基礎を身につけたうえで、次は技能検定などにもチャレンジしたいですね。

**神澤さん** そうだね。ぜひ、鍛錬をたのしんでください。そしていつかみんなが、海外で活躍する技能者になり、世界へ羽ばたいてほしいなと思います。